

象の卵の重さと長径に関する考察

神谷年洋

2022 年 8 月 1 日

1 はじめに

この文書は、レポートや論文の書き方を示すためのサンプルです。タイトルを「象の卵の重さと長径に関する考察」としてあるのは、あえて荒唐無稽な内容とすることで、間違えて修正せずに提出されてしまう事故を防ぐためです。なお、本稿のタイトルを見て“déjàvu”に襲われた方はおそらく研究者だと思われます。

象の卵の存在は現在も未確認であり、その外見については現在も想像するしかない。図 1 に、想像上の象の卵の外見を示す。



図 1 象の卵の想像図

2 関連研究

象の卵の味覚について、山中 [1] は象の卵が美味しいと言われていることを指摘した。象の卵の实在性に関する研究として、寺村ら [2] は某国の王が実地に象の卵を搜索した事例を報告している。過去日本にも大陸から象が渡ってきていることが指摘 [3] されており、象の卵が国内で発見される可能性も期待される。

3 アプローチ

象の卵を発見するためには、卵の重さやサイズが判明していることが望ましい。2 節の関連研究において象の卵が発見できていないのは、外見上の特徴がわからないために見逃している可能性がある。本稿では、他の動物との比較により、象の卵の重さやサイズが推定できるのではないかとアイデアに基づく考察を行う。

3.1 推定手法

表 1 に，他の動物と比較を示す。ゾウの卵の欄については，確認事例がないため空欄としている。大雑把に，成体の体重と卵の重さが比例すると仮定し，さらに，重さの $\frac{1}{3}$ 乗が卵の長軸の長さに比例すると仮定することにより，象の卵の重さとサイズを推定する。

表 1 卵の大きさ

動物	個体の重さ	卵の重さ	卵の長軸の長さ
ニワトリ	4kg	60g	5.5cm
ガチョウ	9kg	150g	10cm
ゾウ	3t	?	?

参考文献

- [1] 山中卓: 科研費 LaTeX <https://osksn2.hep.sci.osaka-u.ac.jp/~taku/kakenhiLaTeX/> (2022 年 7 月 6 日取得).
- [2] 寺村輝夫, 和歌山静子: ぼくは王様 - ゾうのたまごのたまごやき, 理論社, 2009 年 1 月.
- [3] 亀井節夫: 日本海と象, 第四紀研究, 29 巻, 3 号, pp. 163–172, 2009-08-21.